

るか」「主述が正しく対応しているか」等を挙げた。漢字が正しく使われていることについては辞書を使って付箋に正しいものを書いてあげること、下書きなので文字の乱雑さは指摘しないことも再確認した。付箋は2色を用い、「表現」と「内容」の二観点について色分けして必ず指摘することも伝えた(図3)。

実際にグループでの相互読み合いでは、友達の下書きを読んだ後に付箋で気が付いたことを自分の意見として記入し、グループで回覧した後にそれを見て書き直したり、付け加えたりするなどの推敲を行った(図4)。

(5) 成果と課題

①既習事項の活用の工夫について

修学旅行に出かける前から「三小トラベルの特派員になろう」という大きな学習テーマを掲げたことから、旅行中も主体的に情報を仕入れたり、必要なものを集めたりといった活動が見られた。パンフレット作りに際しては、今までの「リーフレット作り」「新聞作り」等での体験を生かすことができた。常に読み手である来年度の6年生のことを意識させたことは、表現や内容を工夫しようとする姿につながり、そのための手段としての割り付け・校正の必要性に気づき、全体的に関心を持って活動を行うために有効であった。

②考えを広げたり深めたりする工夫について

付箋を使う学習については2度目でもあることから、スムーズに学習に入ることができた。以前は誤字脱字を指摘することに終始し、文章を読み深めることができなかった児童が見られたが、今回はパンフレットの内容にも触れて、それについて話し合う姿が見られた。推敲のポイントをあらかじめ明らかにしたことは、観点に沿って読み取り、気が付いたことを意見として書くために有効であった。活動後にも「楽しかった」「友達の意見が役に立った」「自分では気付かなかったところが友達の指摘で分かった」「自分の書き方で読みにくいところや分かりにくいところを言ってもらえてよかった」

等、付箋による交流がよりよい作品作りに役立つことが分かったという意見が多く出された。想定していなかったが、付箋による交流だけでなく、製作の意図や分かりにくいところについて直接友達に確認したり、自分の意見を言ったりする様子もグループ活動では見られた(図5)。文字による交流から話し言葉による交流に移行する様子が見られた。全体的に意見交流は活発で、率直に意見を言い合う様子が見られた。

一方、付箋に意見を書く際に、根拠がまだ不明確で、感想にとどまっている内容のものもあった。推敲のポイントがよく分からず、どのように友達の作品を読み深めればよいかとまどってしまった児童がいたと考えられる。目的に沿った読み取りを行わせるためには、付箋のモデルを示すなど、友達の作品のどの部分に着目すればよいかを具体的に示す等の工夫が必要だった。また、レイアウトが工夫されている児童の作品については、割り付けの素晴らしさが印象に残ってしまい、文章に必要なことが書かれているかの読み取りが甘くなってしまう傾向が見られた。パンフレット全体のできばえと、文章のよさを同時に見取るための手だても考える必要があった。



【図3 付箋で意見を記入】



【図4 意見をもとに推敲する】



【図5 付箋について話し合う】